

書籍を通じて 笑顔の輪を広げたい!

静岡県立 焼津中央高校 ボランティア同好会

高校生ボランティア・アワード2022

書籍を通して地域に貢献を!

活動実績

焼津市立図書館書庫ボランティア
たーんとく子ども館絵本美術館アシスタントボランティア
点字講座受講
点字絵本作成
点字ヒット曲歌詞作成
焼津の民話紙芝居プロジェクト(DVD化して図書館で貸し出し)
紙芝居の英語バージョン作成(姉妹都市のホバートに寄贈予定)

協力団体様

- 焼津市歴史民俗資料館(生きがい・分流通文化振興課)
- NPO団体よっくらやいづ
- たーんとく子ども館 焼津おもちゃ美術館
- NPO法人藤枝光文庫
- 焼津市立図書館
- 焼津市社会福祉協議会
- 有限会社リーチアウト

地元の企業、団体様と共同で、多くのプロジェクトを企画し、行ってきました。協力してくださった皆様へ感謝です。書籍に関するボランティアを通して、地域に貢献し、私たちの住む焼津市を盛り上げていきたい、という強い思いから活動を続けています。

The power of WORDS.

言葉には、パワーがあります。

落ち込んだ時、不安な時、私たちは友達や、家族、先生からのひとことで元気づけられ、力を発揮することができます。コロナ渦で人とのかかわりがどんどん薄れていく中、私たちはこの言葉のパワーに着目しました。

ひとことで言葉と言っても、「書き言葉」「読み言葉」「話し言葉」などと、いろいろな役割を持つ言葉があります。話すという活動が制限される中、地域の方に元気を与えたいと考え、いろいろな活動を行ってきました。

点字

目が見えない方は、活字を直接書籍で読むことができません。以前に全員で参加した、「声掛けサポート養成講座」ではアイマスクをして目が見えない生活の疑似体験をしました。そこには真っ暗な世界があり、普段行き慣れた廊下や階段がとても怖く、そばにいる人の声だけが頼りでした。

そこで私たちは、目が見えない人たちにも絵本や書籍を楽しんでもらえるように、点字講座に通い始めました。週一回、約6か月で、ほとんどの部員が点字の初級に合格しました。講座は、地元のNPO団体である光文庫さんのご協力で、無料で通わせていただきました。そこで絵本やヒット曲の歌詞などを点字に直し、多くの目が見えない方に喜んでいただけました。その活動は、新聞にも2度掲載され、地元の方に高く評価されています。

紙芝居

紙芝居は、地元のボランティア団体である「よっくら焼津」と共同で、焼津の民話を紙芝居にしました。皆が初の体験で、絵を描くところや場面設定まで、大変な苦労がありました。舞台となる海岸に皆で出向き、住職さんのお話を、臨場感あふれる紙芝居を作成しようと頑張りました。その紙芝居は、DVD化し、焼津市の市立図書館で貸し出しをしていただくことになっています。今はそれを、英語に訳し、姉妹都市のホバートに送ろうと作成中です。

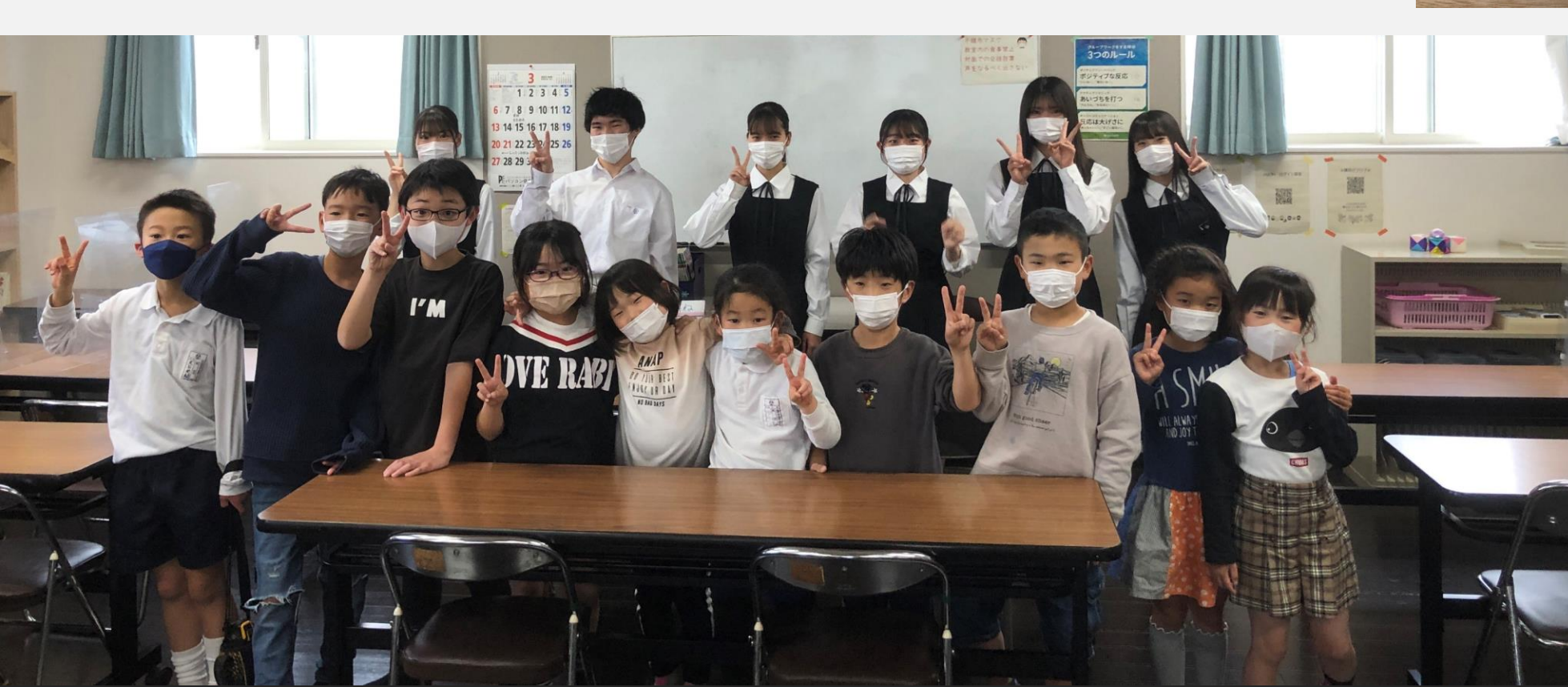
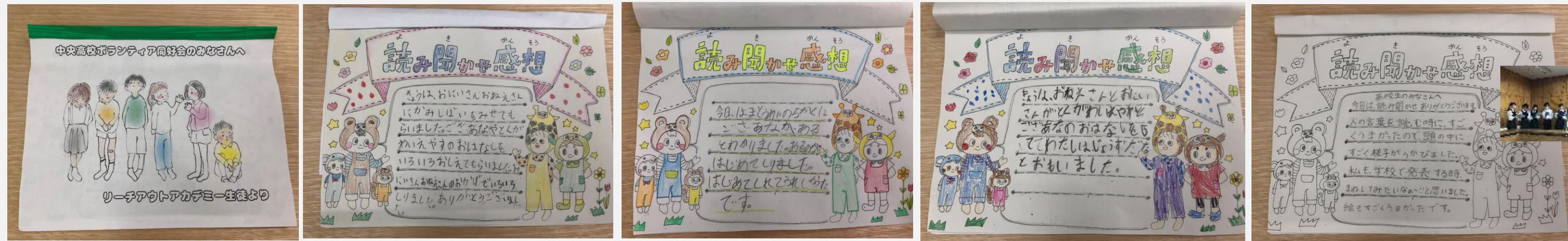
点字で絵本やヒット曲の歌詞を作成



活動が新聞取材されました!



子供たちから思いがけずうれしいお手紙も!



焼津と徳川家康



遠洋漁業と美しい富士で有名な焼津市は、静岡県の中部地区に位置しています。

面積は70.31平方キロメートル、北部山間部を除き平坦な区域に、約5万5千世帯、約14万人の市民が生活しています。市内には 焼津漁港(焼津湾・小川湾)と大井川湾の2つの 港湾があり、また、東西の交通アクセスを生かし、江戸時代より焼津漁港ではカツオ漁が盛んであり、現在でも漁業水揚げ額は全国一位です。

また、それに加え、徳川家康が愛した土地としても有名で、地元には地元の人が知らない数々の言い伝え、民話が残っています。

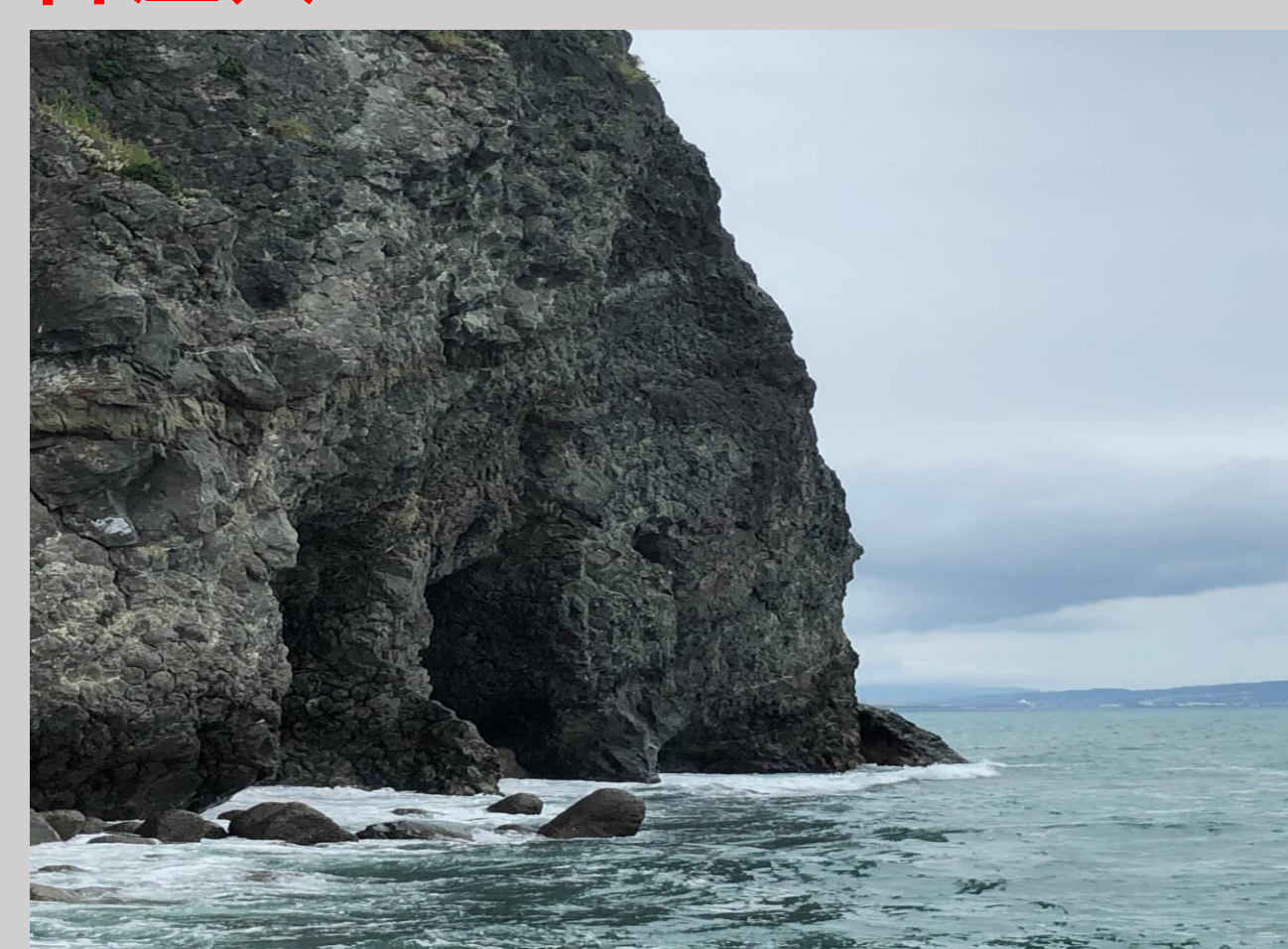
焼津神社



焼津神社の御創建は反正天皇4年(西暦409年)と伝えられており、今から1,600年以上も前になります。

現在の本殿は慶長8年(1603年)、約400年前に徳川家康によって建てられたものです。家康は神社に対し社領を寄進し、以後歴代の将軍からこの社領を保證する朱印状が発せられていることから、焼津神社と徳川家には深い関わりがあったことがわかります。

御座穴



今回紙芝居の舞台となった御座穴は、焼津市民の憩いの場である浜当目の山の麓にある洞窟で、武田軍から逃れた家康がそこに隠れ、一命をとりとめたという言い伝えがあります。

地元のひとたちにかまわれ、心のごもった食事をふるまわれた家康は、その時のことを大変感謝し、天下を取ったのちも焼津の地を大切に守ったといわれています。また、天下を三男の家光に譲った後、焼津の地をたびたび訪れ、鷹狩を楽しむ様子を記録として残っており、焼津と家康の深い関係がうかがい知れます。

子供たちの遊び場として親しまれていた御座穴ですが、今は穴の奥深くまで波が押し寄せ近づくことができません。そのためか、家康の言い伝えを知っているものも、また伝えるものも少なくなってきてしまいました。私たちはこの家康にまつわる民話を紙芝居にし、後世に伝えることで、歴史ある街、焼津を盛り上げていきたいと思っています。

世界へ

この焼津の魅力や、民話を通して知ってもらおうと、紙芝居の英語バージョンを作成しています。これをDVD化し、焼津市を通して、姉妹都市であるオーストラリアのホバート市に贈る計画を立てています。

Anytime, as usual. どんな時代でも、私たちらしく。

ボランティアは、笑顔の輪が広がる活動です。同好会のメンバーの中には、「楽しそうだしやってみようかな。」と好奇心で始めたものも大勢います。しかし、活動を行っていく中で、やりがいや、誰かに感謝されるうれしさを感じ、「やってよかった」と自然に笑顔になれることに気が付きました。

私たちの活動は、決して大きな企画ではなく、直接世の中を変えるようなことではないかもしれませんが、でも周りの役に立てるということに喜びを感じ、活動を続けています。

ボランティアを通じて様々な人とつながり、地域ともつながりを持つことができました。紙芝居制作の際には、実際の現場に行き、舞台の一つでもある那閉神社の住職さんにお話を伺いました。現場では、住職さんがなんとOBだったという驚きのご縁もありました。また、完成した紙芝居を、地元の学童保育で発表させていただく機会を得ることもできました。子供たちからは後日、お手紙をもらい、実際に子供たちからのかわい目の字を見たときは、本当にうれしかったです。

現在、コロナ渦で多くの人と接する活動することがなかなかできません。制限がかかってしまう場面も多いので、過去に先輩方が行ってきた、地元の施設への訪問や、お手伝いはできない状態にあります。そんな中でも、私たちが一から作成した「紙芝居」や「点字の書籍」を手に取り、笑顔になってくださる方のことを思い、活動を続けています。

たった一冊の書籍から、笑顔が広がる瞬間。書籍をメインとして活動をしている私たちにとって、それは、何物にも代えがたい、大切な瞬間です。その瞬間がより色濃いものになるよう、周囲に感謝しながら、私たちにできることを精一杯行っていきます。

私たちは、静岡県立焼津中央高校、ボランティア同好会です。現在3年生8名、2年生3名、1年生3名の計14名で和気あいあいと活動しています。

コロナ渦で、今まで行っていた、こども園や老人介護施設への訪問などの活動が制限される中、「私たちにできることは何か」を常に考え、活動を続けています。こんなこともできるんじゃない?とみんなが意見を出し合って、いつも楽しく活動しています。

ほぼ全員がボランティア初体験で入部するのですが、今ではみんなボランティアの達成感に夢中です!

